

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100078		
法人名	有限会社プログレス		
事業所名	グループホームあい楠見		
所在地	和歌山市楠見中197-8		
自己評価作成日	平成23年2月11日	評価結果市町村受理日	平成23年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaiyohyo-wakayama.jp/kaigosip/informationPublic.do?JCD=3090100078&SCD=320>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F
訪問調査日	平成23年2月23日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

あい楠見は4年目となる地域密着型の複合施設です。鉄筋2階建ての1階部分には高齢者住宅と小規模多機能居宅介護があり、2階には高齢者住宅とグループホームがあります。施設の北側には和泉山脈が連なり、四季折々の自然が感じられます。近辺に小学校、スーパーがあり利用者の方との買い物に利用させて頂いています。グループホームでは理念に掲げているように「私らしい生活」を念頭におき本人の今までの生活を継続できるように職員一同取り組んでいます。又、同系列法人の医療機関との連携で、体調の変化に対応でき、本人や家族が安心できるように支援しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

建物の裏には畑があり、2階から見えるのどかな風景からは安心感が得られ、周辺にはスーパーや小学校、病院などがあり、地域での生活が感じられる。共有スペースは2か所に分かれている。ほとんど使用されていなかった畳の部分をフロアに改修して少人数で集う場が確保され、また廊下の突き当たりにはソファーが置かれていて、入居者がそれぞれ自由に場所を選んでくつろぐことができる。管理者と職員は入居者が自分の家にいるように過ごしてほしいとの思いが強く、特に夕方行っている入浴は入居者から良く眠れるようになったと喜ばれている。入居者一人ひとりの担当職員を決めていて、家族が入居者の話を聞きやすく、要望を出しやすい体制となっている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1 (1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域と共に歩み私らしい生活を」という理念をリビングに掲げ入居者様がその人らしく生活できるよう支援に努めている。	「地域と共に歩み私らしい生活を」という理念を掲げ会議やミーティングの時には職員間で共有している。また最初の理念は全体的なものであったので、グループホーム独自の理念に変更して共有スペースに貼っている。	
2 (2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入り、地域の行事に参加したり溝掃除の参加、きしゅう君の家の活動に参加している。	自治会に入り、職員は溝掃除に参加していると共に「きしゅう君の家」として地域の子供達を守る場となっている。また、散歩や買い物の際には地域の住民と日常的に挨拶を交わしている。	職員は地域との交流を行っているが、今後は更に入居者を交えて、相互に交流できる場が持てるような取り組みに期待したい。
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々が集まるスーパーへ入居者様と共に出かけ交流を図っている。		
4 (3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開き入居者様の報告を行い、又、家族様より意見を頂き実践に活かしている。	2カ月に1度の開催で、家族代表・民生委員・地域包括の職員の他、知見者として他施設の職員の参加もある。報告と共に意見も交わされており、だされた要望に対して対応できることはすぐに実施している。	会議の意義や内容の報告などを行い、より多くの家族が積極的に関わってサービス向上に活かせるような取り組みを期待する。
5 (4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村には事務的な事では助言を頂いているがサービスの取り組みについては話し合いができない。	少しの疑問や迷った時などは市の担当者に聞いているが、出向いてきてもらい助言を受けたり話し合いの場を持つまでには至っていない。	市町村の担当者に自分たちの取り組みを伝え、協力関係を築いていくよう連携を密にした取り組みを今後期待したい。
6 (5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員を配置し、定期的に委員会を開催し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	外部研修の機会が多く、また個人的にも積極的に研修に参加し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。外部研修した内容を事業所内で伝達研修し、職員全員で意識を深めている。	
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法についての職場内研修や外部研修会に参加し、学び、虐待防止に努めている。		

【事業所名】あい 楠見

自己 外 部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の勉強会に参加し成年後見制度について学び、自施設での勉強でも取り上げ活用できるようにしている。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人・家族様が不安や疑問点がない様に時間をかけ十分な説明を行っている。		
10 (6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には必ず入居者様の状況を伝え、家族様の要望を聞くようにしている。事業計画にもアンケート実施月を設定している。	家族の訪問時には必ず入居者の状況を伝えている。また年1回アンケートを実施し、集計して内容についてスタッフ会議等で話し合っている。アンケート用紙は、書き込む所も多く色々な意見が書かれている。	
11 (7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	責任者会議、スタッフ会議以外にGH会議を設け、密に意見交換を行い反映させている。	グループホーム会議やスタッフ会議で意見交換を行っている。施設長、管理者、リーダーは職員の意見を聞き事業所の運営に反映させている。入居者中心の考えのもと異動もほとんどなく1年以上退職者もいない。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長、管理者、リーダーが参加する責任者会議の中で話し合い、スタッフを尊重し外部研修も出張とし向上心につながるよう努めている。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の施設内研修の他に外部研修会にも積極的に参加し職員の知識向上に努めている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の勉強会、見学会等で交流を図り情報交換しGHの質の向上に取り組んでいる。		

## 【事業所名】あい 楠見

自己 外 部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時より担当職員を決め本人の気持ちに寄り添った細かい配慮を行い信頼関係を築ける様に努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族様の意見、要望を聞き、よりよい関係作りができるよう努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様の状況をセンター方式等を用いアセスメントを行う事によりよりよい支援を行えるよう努めている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と共に日々の掃除や食事作りを行い、役割を持って過ごしてもらえるよう努めている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様には普段より本人の状態を報告しながら協力を頂き共に支援し合っていくようしている。		
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人がホームに面会に来て頂くようになればには働きかけをしている。	友人、知人も高齢のため、家族以外の訪問はほとんどないが、家族と共に墓参りに行ったり、ドライブ時に以前住んでいた家のそばを通る等して馴染みの関係が途切れないように働きかけている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の訴えを引き出し、職員が間に入ることにより円滑な人間関係が築ける様努めている。		

【事業所名】あい 楠見

自己 外 部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された入居者様に対しても他のサービスを紹介し、支援していくように努めている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23 (9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを行い、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握が出来るように関わりを大切に日々努めている。	センター方式を活用して入居者の希望を聞いているが、本人から聞けない場合は家族の協力を得ている。入居者が1日の中で話す言葉を集めてスタッフ間で話し合い、本人の気持ちの変化を確かめている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様のそれまでの生活習慣や生活環境を本人様、家族様から聞き出すことによりその人らしく生活を送れるよう支援している。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の様子を記録に残すと共にスタッフ間での申し送り、伝達により状況を把握出来るよう努めている。		
26 (10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様の思いを大切にし家族様、ケアマネージャー担当職員を交えケアカンファレンスを行うようしている。	モニタリングには、家族も参加している。また参加出来ない家族には、書面を郵送し意見を聞くようしている。モニタリングの日を通知するようになってから参加してくれる家族が多くなった。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の日々の様子を個別記録に記入すると共に職員間の連絡ノートに記入し全職員が同じケアができるよう努めている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々で本人や家族様のニーズがあれば実現できるよう話し合い取り組んでいる。		

【事業所名】あい 楠見

自己 外 部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	音楽や体操のボランティアに来て頂くことにより活動的で変化のある生活を送れるようにしている。		
30 (11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1度の受診以外で必要に応じ主治医に連絡をとり指示を仰いでいる。	母体の病院を経由して入居するケースが多く、同病院が主治医の人が多い。耳鼻科、眼科等は馴染みの医院に行っている。受診は家族が行っており、医師への状況提供書を家族に渡している。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の日々の変化に注意し看護職との連携を図り適切な受診が出来るよう支援している。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換を密に行う事により関係作りを構築している。		
33 (12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所できることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の家族様の思い希望を聞き意向に添える様常に本人、家族と話し合う機会を持つよう努めている。	希望があればグループホームで看取りをする方針で、家族と話し合いながら終末期に看取りができる体制を整えている。また病院との連携が充実している為家族も安心しており職員も夜勤時の不安もなく勤務出来ている。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は中江HPへ連絡し対応。マニュアルを作成し実践的な勉強会を行っている。		
35 (13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消化器の位置、避難経路の把握、避難訓練を実施。	法人全体で火災訓練を行っている。地域の訓練には参加していないが、自治会には地域の災害時の避難場所に施設を提供する意思を伝えている。備蓄は病院内にしている。	

## 【事業所名】あい 楠見

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である利用者様に対し尊敬の気持ちを持って常に接する様心掛けている。	希望により居室の鍵を自分で管理することもできる。尊厳についての勉強会には力を入れているが、職員が無意識のうちに入居者の人格の尊重において不適切な内容の会話をしている場面がみられた。	入居者への尊厳、プライバシーへの配慮について職員間で話し合い、今後の実践的な取り組みに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様との会話やかかわりの中で本人様の思いや希望を聞き出すようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様がゆっくりと過ごせる様、また、なじみのある趣味を継続して続けられるように考えすすめている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様と共にその日着る服を選んだりアドバイスするよう心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時の配膳やみそ汁作りを入居者様と一緒に、食後は全入居者様にランチョンマット拭きをして頂いている。	栄養管理された食事が法人施設から運ばれている。毎食のご飯とみそ汁、おやつ、行事の食事は皆で献立を考えて一緒に作っている。入居者と一緒に買い物に行き、楽しく調理し職員も一緒に食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の水分、食事摂取量がわかるように表を作成し把握に努めている。また摂取量減少時には食事形態の変更等を検討するよう心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの声かけを行い自己にて出来ない入居者様には介助を行っている。		

## 【事業所名】あい 楠見

自己 外 部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の排泄パターンや習慣の把握に努め排泄の自立を支援している。	排泄に不安のある方はリハビリパンツ、尿取りパットを利用しているが、排泄パターンを把握することによりパットの種類を変えている。さりげなく声掛けをし、水分摂取量など確認しながら自立支援を行っている。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促すと共にラジオ体操をして身体を動かしてもらうよう努めている。看護師と連携を取りグル音の確認や便薬の調整を行っている。		
45	(17) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夜間入浴を行う事により在宅生活を送っていた時と同じ生活パターンを送って頂けるようにしている。	入浴が好きな人には、毎日声掛けをしている。また拒否しがちな人には、日中機嫌のいい時に入浴してもらっている。夜間入浴するようになってから良く眠れるようになり、入居者の安心・満足に繋がっている。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好きな時間に居室に戻り休息をとってもらえるようにしている。天気の良い日は布団を干し安眠できる様努めている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援は職員が行っているが看護師、担当医と連携をとり入居者様の体調変化の際は指示を受けるようにしている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月々のイベントや誕生日会、レクリエーション、おやつ作りに参加することにより、張り合いのある生活が出来るよう支援している。		
49	(18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや近くの公園に出かけ地域の人々とのふれ合いを大切にしている。又、季節ごとのイベントに出かけている。	梅や桜など四季の花を見に行ったり、公園にお弁当を持って出かけることもある。またドライブが好きな人が多く、「ドライブにいきたい」と伝えてくれる入居者には希望に沿えるよう支援している。観劇に行くこともあり、行きたい所に行けるように支援している。	

【事業所名】あい 楠見

自己 外 部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理可能な入居者様においては自由にお金を使える様買い物時に声かけしている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	月に1度、本人の日々の生活状況を写真やコメントを添えてお便りするようにしている。本人の気持ちを大切にする為出来るだけ家族の協力を得るよう努めている。		
52 (19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間が気持ち良く利用出来るよう日々清潔を保ち季節にあつたディスプレイを掲示するように工夫している。	共有空間に少人数で集まれる場所があり、入居者それぞれが気の合う人と会話している。廊下に置かれたソファーは、すぐに共有空間に溶け込むことが難しい人のクッション的な役割を担っている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで過ごして頂く際、本人が好まれる配置、又、気のあった入居者様とのよい関係づくりに配慮している。		
54 (20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に在宅時使用していたなじみの物を配置する事により入居者様にとって居心地のよい空間作りに努めている。また、入居者様と相談しながらベッドやたんすの位置を変更することにより過ごしやすい居室になるよう工夫している。	ベッドとチェストは施設の備品であるが、仏壇やテーブルなど馴染みの物を持ちこんだり、ベッドやチェストの位置を変えたりして入居者1人1人過ごしやすいように工夫している。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの残存機能を活かし日々の生活の中で役割を持って頂き自立した生活への支援に努めている。		